

令和1年6月9日
今週のベストスマイル！



雁レク5 ブルーマーリンズ 対 塩浜ジャガーズ
三回裏、ホームランを放ち満面の笑みでカメラに応える塩浜ジャガーズ末永選手。
写真：新町ウインズ 桐島 司

青松園B 柵越えHR3発でホーネッツ大勝！！

三苫ホーネッツ（3勝） 4 0 0 0 2 0 4 1 0 川原○-広木
奈多サンデーズ（2勝2敗） 2 0 0 0 0 0 0 2 野々下（雷）●、古賀一野々下（利）
HR：堺（恭）広木2（三苫ホ） 3BH：今田（三苫ホ）江口（奈多サ）
2BH：稲葉、川原（三苫ホ）宮口（奈多サ）盗塁：西村、井手2、稲葉（三苫ホ）

両チーム早々にアップを終え、予定より5分早く試合が始まると、先攻ホーネッツ打線がサンデーズ先発の野々下（雷）を攻める。先頭の堺（恭）選手がセンターオーバーの三塁打とWPで幸先よく先制すると、三番西村選手の内野安打、続く広木選手が四球を選び、一死一二塁のチャンスに五番稲葉選手が二塁打を放ち追加点を挙げる。なお一死二三塁のチャンスで六番矢野選手の打球はセンターへ。タッチアップ返球後の捕手から三塁送球が悪送球となり2点追加。負けられないサンデーズはその裏、一番古賀選手がヒットで出塁すると、二番江口選手の三塁打と三番野々下（雷）選手の一塁ゴロの間に2点取り返す。二回表からサンデーズは、野々下（雷）投手から古賀投手に交代し、出塁は許すも追加点を与えない。ホーネッツ川原投手も淡々としたピッチングで投手戦となる。追加点が欲しい両チーム、先に動いたのはホーネッツ。四回表、八番今田選手の三塁打の後、九番只松選手がスクイズ！！点が入るかと思いきや、古賀投手の好フィールディングでタッチアウト！！追加点を与えない。これで流れがサンデーズに変わるかと思われたが、五回表ホーネッツ井手選手が相手エラーで出塁し、二盗、三盗で塁を進める。ここで、四番広木選手が柵越えの本塁打で2点を追加。最終回も一番堺（恭）、広木選手の柵越え本塁打等で4点を追加したホーネッツが大勝した。攻守ともに見ごたえのある試合だった。

（記事：ソルトベイスターズ 坂本 皓祐、写真：酒井 哲朗）



両軍挨拶。



三塁打のサンデーズ江口選手。



柵越えHRのホーネッツ広木、酒井（恭）選手。

雁レク5 塩浜ジャガーズ3安打12得点で勝利!

ブルーマーリンズ（4敗） 6 0 0 6 横山（祥）●、児玉ー横山（健）

塩浜ジャガーズ（1勝2敗1分）6 4 2× 12 立石○ー猪野

HR：末永（塩浜ジ） 2BH：立石（塩浜ジ） 盗塁：一ノ瀬（塩浜ジ）横山（健）、尾田（翔）、井上（ブルー）

一回表、塩浜ジャガーズ立石投手の制球が定まらず、ブルーマーリンズ横山（健）選手の適時打を含む6失点の立ち上がり。その裏ブルーマーリンズ横山（祥）投手も制球が定まらずノーヒットで6失点、同点になる。両チーム初回の攻撃に20分ずつ、一回終了に40分かかった。立石投手は二回、三回はランナーを出すも無失点に抑えた。ブルーマーリンズは二回から児玉投手に継投するが、ストライクが入らず二回に4失点、三回裏にジャガーズ末永選手にHRを打たれ2失点し、三回途中で時間切れゲームセットとなった。

（記事・写真：新町ウインズ 桐島 司）



ジャガーズ末永選手のホームラン。



ジャガーズ末永選手の笑顔写真。



暴投にガッカリのジャガーズ立石投手と道喜選手。



タイムリーヒットを打ったブルーマーリンズ横山（健）選手。



ノーヒットなんですがブルーマーリンズ横山（祥）投手。



継投のブルーマーリンズ児玉投手。

雁レク軟式4 六回の攻防が勝敗を左右！

和白新町パイレーツ（3敗1分）0030100 4 八坂×-大濱
 奈多クラブ（4勝） 021003× 6 吉田○-高瀬

2BH：岡山（新町パ）高瀬（奈多ク）盗塁：今泉（新町パ）木伏（奈多ク）

少数精鋭の両チームの試合は、パイレーツ八坂投手、奈多クラブ吉田投手の先発で試合開始。先制は奈多クラブ。二回裏、一死から今林（健）選手が両チーム通じての初ヒットを放つと、続く高瀬選手が三塁線を襲うヒッ

トで一死二三塁のチャンス。ここで今林（俊）選手がすかさずライト前2点タイムリーを放ち2点を先制する。パイレーツもすぐさま思わぬ形で反撃を開始する。三回表、あっさり二死を取られるが、そこから三者連続四球で二死満塁のビッグチャンス。第一打席を見逃し三球三振で終わった大濱選手がセンター前で1点を返すと、続く本堂選手もセンター前2点タイムリーを放ち、逆転に成功する。その後、両チームとも1点ずつ点を取り合い、パイレーツが1点リードのまま六回の攻防を迎える。パイレーツは先頭打者の八坂投手がヒットで出塁し無死二塁のチャンスを作るが、後続がつながらず無得点。奈多クラブは同じく先頭打者の吉田投手がヒットで出塁すると、今林（祐）選手があわせたバッティングでつなぎ、無死一三塁のチャンス。続く今林（賢）選手はライトへのフライ。同点の犠牲フライかと思いきや、まさかの後逸・・・打者の今林（賢）選手まで生還し3点を奪い逆転に成功する。残り時間45秒で突入した最終回。パイレーツは先頭の今泉選手が四球を選ぶも後続が倒れ試合終了。奈多クラブの勝利となった。表題の通り六回の攻防が勝敗を分ける形となった。流れはパイレーツ側にあっただけに、無死二塁のチャンスを活かし、あと1点奪えていたら試合展開はパイレーツ優勢だったかもしれない。あと先発の八坂投手は6失点したものの自責点は3点。それだけにもったいない試合となってしまった。奈多クラブも、ケガ人や欠席者などで思った試合運びは出来ていないが、最後はしっかりと試合をものにするところはさすがである。（記事：三友クラブ 山本 健一、写真：大坪 和則）



奈多クラブ先発 吉田投手。



和白新町パイレーツ先発 八坂投手。



二回裏、先制のライト前2点タイムリーを放ち、どや顔の今林（俊）選手。



一時逆転タイムリーを放った本堂選手の笑顔。



センター前の打球をダイビング(?)キャッチ。



思わぬ形で生還する今林(賢)選手。



ライン際の打球を味方のヤジに対しファールのアピール!

青松園A 最後まで!

三苦フレンズ (3勝1分) 3 0 1 2 0 1 0 7 山口○、生野(拓)、山口-佐藤(由)

奈多フェニックス (1勝2敗1分) 0 0 0 1 0 0 3 4 今林(勇) ●-実延(新)

HR: 高原(奈多フ) 2 BH: 山口2、佐藤(由)、生野(拓)(三苦フ)

盗塁: 生野(拓)、吉村(雄) 2 (三苦フ)、能丸、山本(奈多フ)

三苦フレンズは一回表、先頭の一番吉村(雄)選手が一塁へのセーフティバントで出塁すると二番山口選手が中越えの二塁打を打ちチャンスを広げると続く三番生野(拓)選手はバントの構え。投手前に転がるも、これが野選となりフレンズが1点を先制する。尚もチャンスは続き、四番松田選手は四球で出塁し続く五番佐藤(由)選手の左前安打で2点を追加する。フレンズはその後も順調に得点を重ねていき、四回裏にフェニックス一番高原選手にソロ本塁打を打たれるもフレンズ先発の山口投手にとっては十分すぎる援護であった。フレンズは6点リードの状況で二番手生野(拓)投手が登板する。しかし先頭打者から制球難に苦しみ、二死まではこぎつけたもののこの回だけで5四死球を与えてしまう。そしてこの回3失点目となる押し出し四球を与えたところで再び山口投手が登板。フェニックスは二死満塁と一発が出れば逆転サヨナラという場面で打席には、初回凡退はしているものの右翼へ痛烈な打球を放っている二番今林(勇)選手。しかし、裏をかかれたか山口投手のチェンジアップにバットは空を切り、試合終了。フレンズは山口投手の好投のみならず、攻撃面も厚みを増してきた。

(記事: 雁の巣ライナーズ 明瀬 旭 写真: 有馬 雄一)



試合開始。



奈多フェニックス先発の今林（勇）投手。



一回表、2点適時打を放つフレンズ五番佐藤（由）選手。



三苫フレンズ先発の山口投手。



二回表、2本目の二塁打を放ったフレンズ二番山口選手。



西藤三塁手のナイスフィールディングだった。



四回裏、ソロ本塁打を放ったフェニックス一番高原選手。